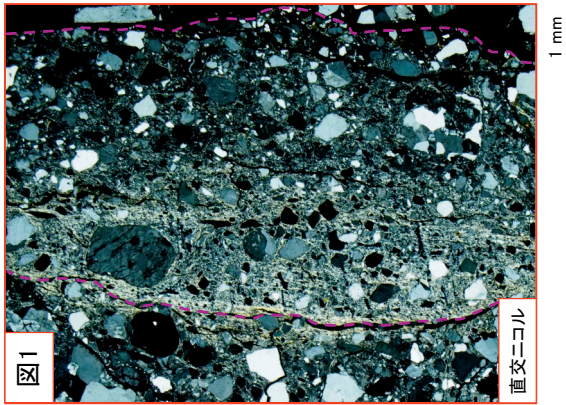
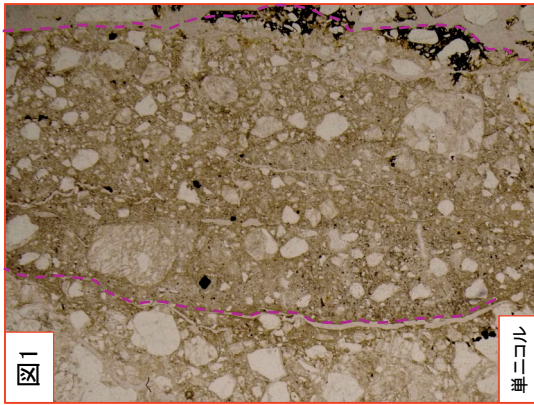
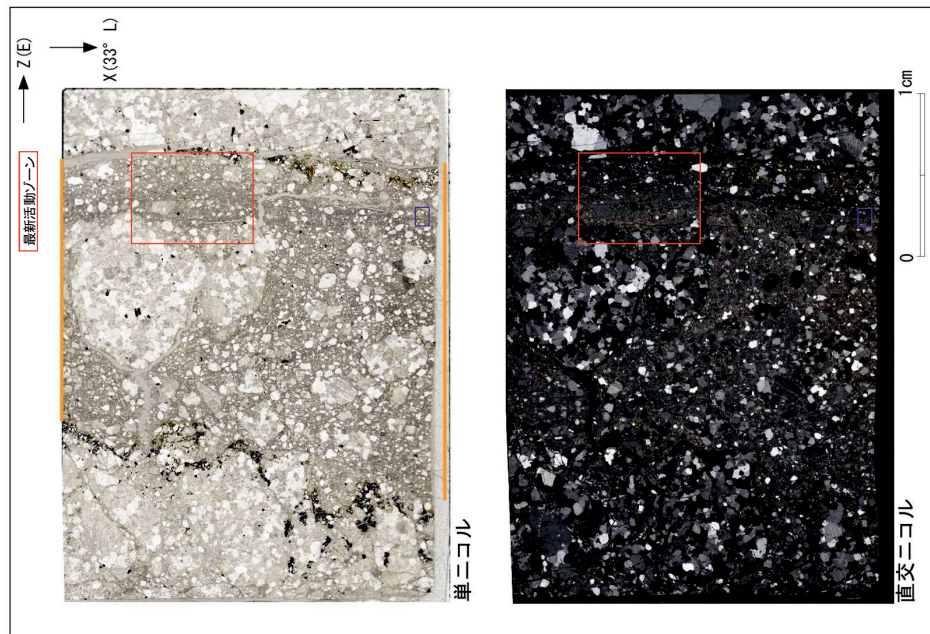
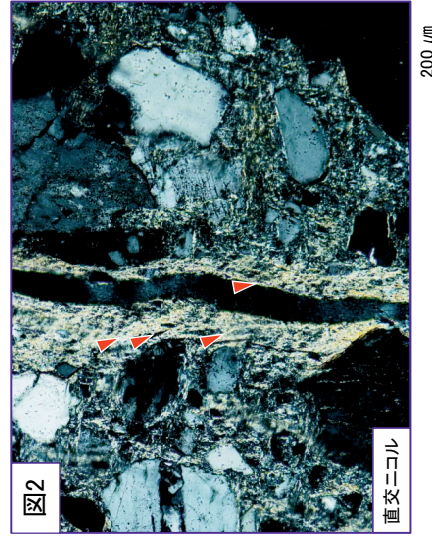
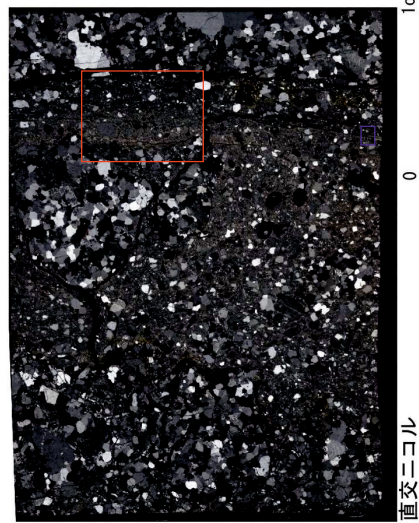


- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す

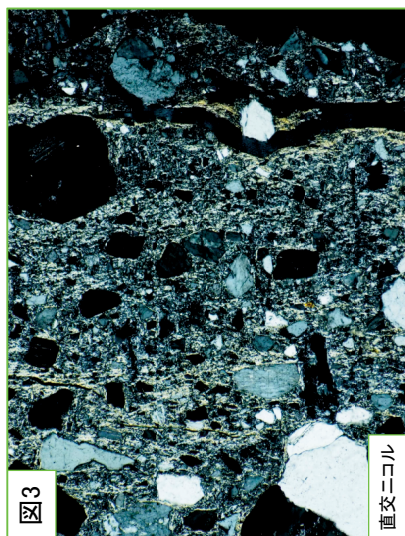
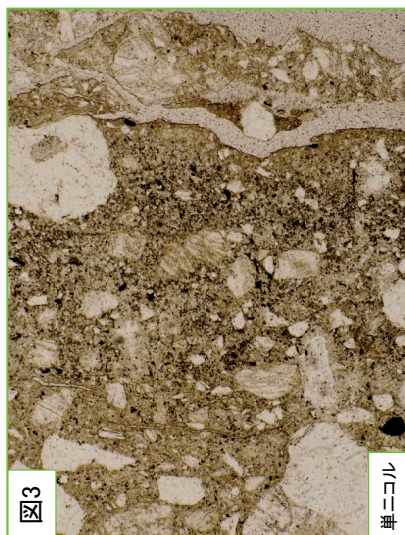
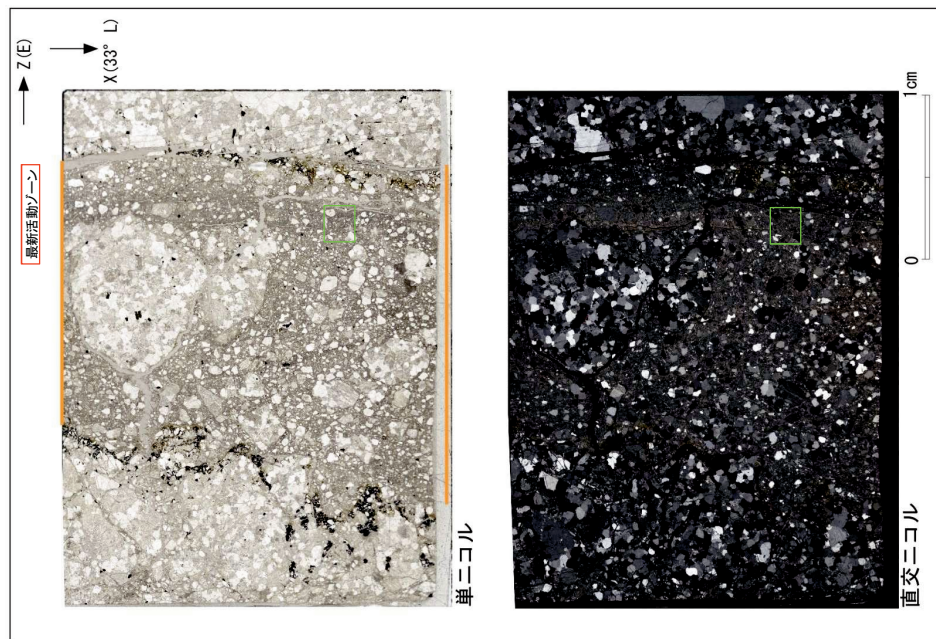


凡例
 断層カウジ
 カタクレーサイト

赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図3)
- 岩片は少ない。(図3)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



第7.4.4.256図 (5)

破砕部性状 H24-D1-1 深度89.91~89.95m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度89.95m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面βに沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面βは最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	2.0※1	無

* : 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

※1: 断層ガウジ(0.5cm)と断層角礫(1.5cm)の合算値

- ・深度90.26～90.31mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度90.31～90.37mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度90.37～90.66mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●90.26～90.84m：破砕部
 90.26～90.31m：粘土混じり岩片状部 (Hj)

上端50°で波打ち、下端70°で直線的にシャープに連続。径5～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片と岩片間の一部に幅0.5～1mmの軟質な白色粘土脈が分布する。にぶい黄橙色を呈する。幅15～20mm。

90.31～90.37m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端70°、下端70°でともにほぼ直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒とほぼ粘土化した径5～10mmの花崗斑岩の岩片を多く含む。やや軟質。上端には幅1～2mmの灰赤色軟質粘土脈を伴う。灰白色主体で縞状に灰赤色呈する。幅20～35mm。

90.37～90.66m：粘土混じり岩片状部 (Hj)

上端70°、下端75°でともにほぼ直線的でシャープに連続。ほぼ粘土化した岩組織も消滅した径5～30mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5～1mmの軟質な白～灰赤色粘土脈が分布する。にぶい黄橙～灰白色を呈する。

コア写真



凡例
 ■ 断層ガウジ
 ← 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

細粒部は局所的に分布する



細粒部が網目状に分布する

青梓部拡大

0 5 cm

細粒部が網目状に分布する

第7.4.4.257図 (1) 破砕部性状 H24-D1-1 深度90.26～90.84m (肉眼観察による断層岩区分 (1/2))

- ・深度90.66mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度90.66～90.72mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度90.72～90.84mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

90.66m：粘土状部 (Hc-1)
傾斜75°で幅2mmの軟質な赤灰色粘土で、直線的にシャープに連続する。

90.66～90.72m：粘土質礫状部 (Hb)
上端75°で直線的にシャープに、下端60°で波打ちながら連続。径1～2mmの石英粒、長石粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅6～20mmと膨縮する。

90.72～90.84m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
上端60°で波打って、下端50°でほぼ直線的にシャープに連続。径5～20mmの一部硬質礫が残留するが、概ね粘土化した花崗斑岩の岩片と径2～3mmの石英粒、長石粒、花崗斑岩の細岩片を含む基質からなる。にぶい黄橙色を呈する。

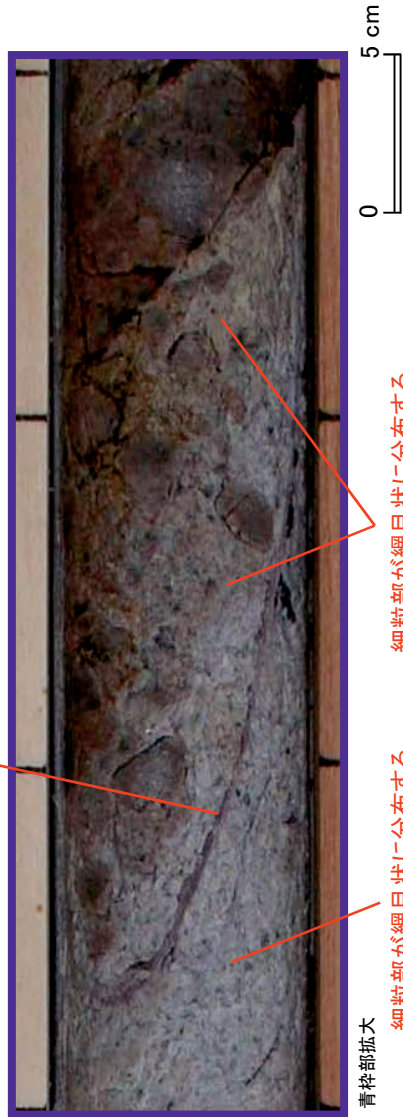
コア写真



凡例

 断層ガウジ 断層部範囲* 破砕部範囲*
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部

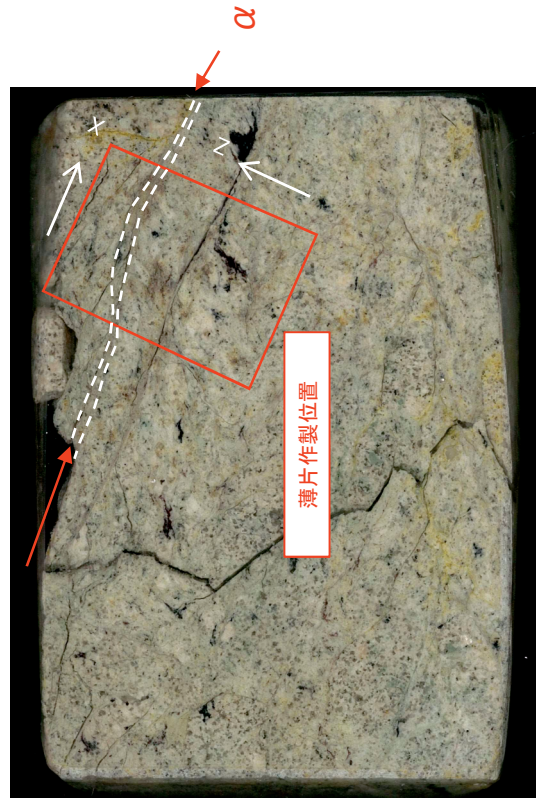


細粒部が網目状に分布する 細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。



薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盛側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)

